

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 財団法人京都YWCA

1. 事業の趣旨・目的

日本で子育て中、もしくは今後、子どもを持つ予定の外国籍住民、母語が日本語で無い人たちを対象に「結婚・妊娠・出産」「健康・医療」「育児・地域の子育て支援」「就学・学校生活」「PTA や地域住民との付き合い」「災害時の緊急対策」をテーマとして各状況下での必要な情報、手続き、会話、書類申請、問い合わせ方法などを身につけ、日本で安心して子育てができ、尚且つ孤立することなく生活ができるよう言語面での支援を行う。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
7月2日	京都 YWCA 会館 会議室	池上信子、上村愈巳子 神門佐千子、花岡正義 平野富貴、吉村三和 井上依子	事業内容の検討	事業概要の説明 過年度の同事業の実施経験を踏まえて、2011年度の講座内容について検討。
9月1日	京都 YWCA 会館 会議室	池上信子、上村愈巳子 神門佐千子、花岡正義 平野富貴、吉村三和 山本知恵、井上依子	事業事前の広報や申し込み状況など	前回の運営委員会での検討を踏まえ、日本語講師、情報提供者
11月16日	京都 YWCA 会館 会議室	池上信子、上村愈巳子 木戸さやか、神門佐千子 花岡正義、吉村三和 山本知恵、井上依子	事業の中間報告と後半の検討	10月より事業を開始し、その中間報告と、後半の事業内容の再検討と広報について。
3月17日	京都 YWCA 会館 会議室	池上信子、上村愈巳子 神門佐千子、花岡正義 平野富貴、山本知恵 井上依子	事業の評価と今後の展開について意見交換	各講師からの事業評価の共有と、その内容を踏まえて、運営委員会としての事業評価。

3. 日本語教室の開催について

- (1) 講座名 子育てのため日本語教室
- (2) 開催場所 京都YWCA会館
- (3) 学習目標

子育て中に会う場面(「結婚・妊娠・出産」「健康・医療」「育児・地域の子育て支援」「就学・学校生活」「PTA や地域住民との付き合い」「災害時の緊急対策」)で使われる日本語が理解でき、少なくともわからないことが問い合わせたり、人に支援を求められるよう、場面で使われる用語、会話を理解、運用できるようにする。

(4) 使用した教材・リソース

2009年、2010年度に使用したハンドアウト、DVD『ようこそ、さくら小学校へ』(AJLT)、「防災ハンドブック」(財団法人京都府国際センター・やさしい日本語版)、「原子力防災のしおり」(京都府)、「京都市生活ガイド」(財団法人京都市国際交流センター)、「多言語生活情報」(財団法人自治体国際化協会 Web サイト)、京都府警 HP、京都府・京都市公報紙、母子手帳、ごみ袋等、スーパーチラシ等実物多数。

(5) 受講者の募集方法

京都市内の区役所、保健所、大学の学生課、留学生課、留学生寮、京都市国際交流協会、京都府国際センター等国際交流関係団体、多国籍料理店、保育所、幼稚園、子育て支援団体などへチラシの郵送。

京都 YWCA のウェブサイトに掲載。

(6) 受講者の総数 16 人

(出身・国籍別内訳 韓国 9 人,中国 2 人, タイ 2 人, フィリピン 1 人,ベトナム 2 人)

(7) 開催時間数(回数) 57.5 時間 (全 28 回)

(8) 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	受講者数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
①	10月5日 10:30-12:00	1.5 時間	3人	タイ・タイ語(1人) 韓国・韓国語(2人)	教授者1人 通訳者2人	結婚・出産① 結婚・出産・国籍等について
②	10月12日 10:30-12:30	2時間	3人	タイ・タイ語(1人) 韓国・韓国語(2人)	教授者1人 補助者1人	結婚・出産② 日本での結婚式
③	10月19日 10:30-12:30	2時間	3人	タイ・タイ語(1人) 韓国・韓国語(1人) ベトナム・ベトナム語(1人)	教授者1人 通訳者3人	結婚・出産③ 妊娠での通院、出産などについて
④	10月26日 10:30-12:30	2時間	3人	タイ・タイ語(1人) 韓国・韓国語(2人)	教授者1人 補助者1人	結婚・出産④ 妊娠経過
⑤	11月2日 10:30-13:30	3時間	3人	韓国・韓国語(3人)	教授者1人 補助者1人	結婚・出産⑤ 出産の準備 5回分の内容について質疑応答と会話練習
⑥	10月3日 10:30-12:00	1.5 時間	5人	タイ・タイ語(2人) 韓国・韓国語(3人)	教授者1人 通訳者2人 人	健康を保つ① 診療所と病院の違い 診療科の種類

						子育て医療支給制度
⑦	10月17日 10:30-12:30	2時間	10人	タイ・タイ語(2人) 韓国・韓国語(8人)	教授者1人 補助者1人	健康を保つ② 病院での会話
⑧	10月24日 10:30-12:30	2時間	6人	タイ・タイ語(2人) 韓国・韓国語(4人)	教授者1人 補助者1人	健康を保つ③ 病気の症状の説明
⑨	10月31日 10:30-12:00	1.5時間	6人	タイ・タイ語(1人) 韓国・韓国語(4人) ベトナム・ベトナム語(1人)	教授者1人 通訳者3人	健康を保つ④ 健康保険、生活保護と医療券
⑩	11月7日 10:30-12:30	2時間	6人	タイ・タイ語(1人) 韓国・韓国語(5人)	教授者1人 補助者1人	健康を保つ⑤
⑪	11月14日 10:30-12:30	2時間	7人	タイ・タイ語(2人) 韓国・韓国語(5人)	教授者1人 補助者1人	健康を保つ⑥ 救急時の対応
⑫	11月21日 10:30-13:30	3時間	6人	タイ・タイ語(1人) 中国・中国語(1人) 韓国・韓国語(4人)	教授者1人 補助者1人	健康を保つ⑦ 感染症と検査 7回分の内容について質疑応答会話練習
⑬	11月9日	2時間	5人	タイ・タイ語(1人) 中国・中国語(1人) 韓国・韓国語(2人) フィリピン・タガログ語(1名)	教授者1人 補助者1人	子育てと教育① 幼稚園での生活
⑭	11月16日 10:30-12:00	1.5時間	5人	タイ・タイ語(1人) 韓国・韓国語(4人)	教授者1人 通訳者2人	子育てと教育② 幼稚園と保育園 公立と私立 認可と無認可の違い
⑮	11月30日 10:30-12:30	2時間	4人	タイ・タイ語(1人) 中国・中国語(1人) 韓国・韓国語(2人)	教授者1人 補助者1人	子育てと教育③ 広報誌の読み方、申込のことば等
⑯	12月7日 10:30-12:00	1.5時間	4人	韓国・韓国語(3名) ベトナム・ベトナム語(1名)	教授者1人 通訳者2人	子育てと教育④ 園以外の子育て支援
⑰	12月14日 10:30-12:30	2時間	4人	中国・中国語(1人) 韓国・韓国語(3人)	教授者1人 補助者1人	子育てと教育⑤ クラスの便り、 欠席の連絡等
⑱	12月21日 10:30-12:00	1.5時間	4人	中国・中国語(1人) 韓国・韓国語(3人)	教授者1人 通訳者2人	子育てと教育⑥ 小学校の入学手続きと学校生活
⑲	1月11日 10:30-12:30	2時間	6人	タイ・タイ語(1人) 韓国・韓国語(3人) 中国・中国語(2人)	教授者1人 補助者1人	子育てと教育⑦小学校の 学校生活
⑳	1月18日	2時間	6人	タイ・タイ語(1人)	教授者1人	子育てと教育⑧教師や保

	10:30-12:30			韓国・韓国語(3人) 中国・中国語(2人)	補助者1人	護者同士での会話練習
21	1月25日 10:30-13:30	3時間	5人	韓国・韓国語(3人) 中国・中国語(2人)	教授者1人 補助者1人 ボランティア大人4名子ども5名	子育てと教育⑨お弁当についてと実習 9回分の内容について質疑応答と会話練習 終了後日本人のお母さん子どもたちと交流会。
22	11月28日 10:30-12:30	2時間	4人	韓国・韓国語(4人)	教授者1人 補助者1人	地域社会に参加する① 賃貸や引っ越しに関して
23	12月5日 10:30-12:30	2時間	6人	タイ・タイ語(1人) 韓国・韓国語(5人)	教授者1人 補助者1人	地域社会に参加する② ゴミの分別、交通ルール、公共交通機関について等
24	12月12日 10:30-12:30	2時間	3人	タイ・タイ語(1人) 韓国・韓国語(2人)	教授者1人 補助者1人	地域社会に参加する③ 冠婚葬祭、日本の行事
25	12月19日 10:30-13:30	3時間	3人	タイ・タイ語(1人) 韓国・韓国語(2人)	教授者1人 補助者1人	地域社会に参加する④ 年末年始の挨拶や行事等 4回分の内容について質疑応答と会話練習
26	1月16日 10:30-12:30	2時間	6人	ベトナム・ベトナム語(1人) 韓国・韓国語(5人)	教授者1人 補助者1人	安全に暮らす① 防災と災害伝言ダイヤル体験
27	1月23日 10:30-12:30	2時間	4人	韓国・韓国語(4人)	教授者1人 補助者1人	安全に暮らす② 交通ルールと救急
28	1月30日 10:30-13:30	3時間	3人	韓国・韓国語(3人)	教授者1人 補助者1人 消防署職員1名	安全に暮らす③ 防災と災害時の対策 3回分の内容について質疑応答と会話練習 119をかけた際の会話。 消火訓練

(9) 特徴的な授業風景(2~3回分)



子育てと教育クラス
DVD教材を利用して日本の
小学校の様子を学ぶ



子育てと教育クラス
お弁当の調理実習を通して
日本語学習



調理実習後、日本人の
お母さん子どもたちと交流会



受講生の子どもたちの
保育の様子

4. 事業に対する評価について

(1) 当初の学習目標の達成状況

「結婚・出産」

これから日本で結婚・出産・育児を考えている人たちに(特に女性)、日本での結婚・出産について解説・紹介し、安心して生活してもらえるよう支援を目指す。語彙、表現を学ぶことができ、実際の場面での対応に備え、自信を持ってもらえた。

「健康を保つ」

病院等で使う特別な語彙と会話(特に受付で使われる内容、医師・看護師に対して使う症状の説明、検査、薬の服用等で使われる内容)の習得を目指し、実際の場面で語彙表を活用できるようになった。実践的な会話を重視したロールプレイを多用し、学習者が理解しやすいよう心掛けた。

「子育てと教育」

現在、また今後日本で子育てをする人たちに日本の保育、初等教育の制度や子育て支援のシステム等を知ってもらい入園、入学、学校生活が滞りなく送れるように情報提供と、各場面で使われる語彙、表現、会話の習得を目的とし、ほぼ達成できた。2010年度のアンケートをもとに、今回は、会話練習を増やすことを目的とし、ほぼ達成できた。受講者には自身の子どものことを織り込んで会話をしてもらうよう心掛けた。

「地域社会に参加する」

子育てをしながら暮らす地域社会で日本の習慣に戸惑うことなく生活を送ることができ、尚且つ地域住民とも人間関係を築きことができる様、日常出会う様々な場面でのシステムや習慣、文化について知ってもらい、各場面で使われる語彙や表現、会話が習得できることを目指した。

学習内容の設定が難しかったが、当初の目的はほぼ達成できた。また、日本語の学習という点では、2時間×4回という限られた時間の中で「聞く・話す」の練習をある程度行うことができた。

「安全に暮らす」

防災と災害時の対策。各場面で使用される語彙と会話の習得。消防署職員の協力もあり、より詳しい情報と会話等練習の機会を提供することができた。目標どおり達成できた。

「事業全体を通して」

通訳を介しての情報提供の時間を設けたことにより、その後続く日本語の理解は深まった。また、2010年度のアンケートを参考に会話の練習を増やしたことで、語彙、会話の習得、定着が図れたと思う。

(2) 学習者の習得状況

「結婚・出産」

既婚者のかたばかりで、半数はすでに子どもさんがおられたが、日本での結婚・妊娠・出産について概略は理解してもらえたのではないと思う。

受講者が自身の体験を語ることは、日本語でのコミュニケーションの場として有用であったと思う。また、これから日本で出産・育児を考えている受講者にとっては、日本で子育てをしている先輩たちの姿が励みとなったと思う。

「健康を保つ」

日本語力に少し差があるために習得状況にも少し差がでた。

「子育てと教育」

回を追うごとに 和やかで活発なムードになり、発言が増えていった。同国同士はもちろんのこと、国を超えて情報交換等、交流が始まった。

「地域社会に参加する」

受講者は既に日本で生活している人ばかりなので、実生活と照らし合わせながら理解してもらえたと思う。反面、当然知っていると思われたことで案外知識から抜け落ちていることもままあり、受講者からの質問が相次ぎ、理解が深まることもあった。また、地域社会での日頃の悩みや経験が受講者から述べられ、皆で考えたりお互いにアドバイスしあったりする場面もあった。日本語については、対話練習の他に、担当者と受講者間の会話、受講者同士の会話などがわりあい活発に行われ、上達の助けになったと思われる。

最終日の教室の終了後、持ち寄りの昼食を食べながらの「おしゃべり会」は大変楽しく盛り上がった。

「安全に暮らす」

ベトナム人受講生以外は、日本語のレベルが中級もしくは上級レベルであったので、よく理解し、より踏み込んだ内容の質問をしてくれた。消防署職員が来られた際は、なお一層、質問が多く出された。

(3) 日本語教室設置運営の効果、成果

「結婚・出産」

外国人にとって、地理的、心理的(女性団体である点など)に行きやすい場所に生活のを知ることができる日本語教室があるのは安心なのではないと思う。

対訳の概論に終始せず、生活者としての共感を持てる先輩・同輩との会話の場を提供できたのではないかな。

「健康を保つ」

受講者も多く集まり、出席率も高く満足してもらえたようだ。すべての語彙、表現を完全に記憶し習得するまでは到達できなかったが、病院や医療機関へ行く必要が出た際、あわてずに今回の授業の資料などを持ち出して実際に使ってもらえればよいと思う。

「子育てと教育」

幼い子供を異国で孤独と不安の中で育てていた方にとっては情報と学び、出会いの場を提供出来たと思う。公園などへ行ってもなかなか日本人の親子に声をかけることが出来なかったとの声が多数。日本人のマ

マ同士でも、躊躇することが多い場面である。コースの最終日に日本人のお母さんたちとの講習の機会が持てたのは、良かった。学んだ日本語を実践で使う場ともなり、今後もYWCAや地域で出会った際、声がかけられる関係が生まれたのではないかと思う。日本人のお母さんにとっても外国語を母語とするお母さんとの出会い、交流は新鮮であり有益であったと思う。機会があればまた開いてほしいとの希望が双方からあった。

「地域社会に参加する」「安全に暮らす」

「(2)習得状況」の通り、効果・成果はあったと思う。年末には子供さんの風邪や国に帰る等で、欠席が増えたことは残念であった。

(4) 地域の関係者との連携による効果, 成果 等

「結婚・出産」「健康を保つ」「子育てと教育」共通して。

(財)京都市国際交流協会や京都YWCAで行っている行政通訳担当の方や外国籍住人の方への電話相談業務に携わっているメンバーから情報提供の時間という形で協力を得られた。日本語学習の前にテーマに即した情報提供を、日頃外国籍住民支援に携わる方から話してもらうことで、制度やシステムとして複雑な内容を受講生に知ってもらうことができ、効果的であった。また、限定した場面で使われる語彙や会話等を共通理解の上に立ってクラスを進めていけたため、時間的な制限がある中で日本語習得が可能となった。このような事業は地道ではあるが地域への意識喚起につながるのではないか。

「子育てと教育」

「日本語教室設置運営の効果, 成果」に記載の通り、京都YWCAの子育て支援プログラムに参加されているお母さんたちの協力を得て交流会を持つことができた。日本語の習得、定着だけではなく、地域に住む人同士が出会えたことは、相互理解の一助としてプラスアルファの効果があったと考える。

他、授業内で近隣の施設「こどもみらい館(乳幼児の子育て支援施設)」を紹介したところ、授業終了後に出かける受講者の方が何名かおられた。

「安全に暮らす」

消防署員に来ていただき、教授者や補助者が受講生から質問に答えていただいたり、緊急時の119を受けた際の消防署員の働きなどについても話してもらった。受講生にとって有益な情報を得ることができたと思う。また、消防署員にとっても外国語を母語とする人にとって、緊急時に電話で通報する際に、いかに日本語で正しい情報を伝えることが難しいかということを知ってもらう機会となった。互いに出会うことが、今後の災害時、救急時の避難、支援に有益になることを望む。

(5) 改善点, 今後の課題について

① 現状

「結婚・出産」

他のコースに比べて、テーマが限定的なため、対象となる受講者が限られる。今後は「健康を保つ」等、他のコースに組み込むことも検討する。しかし、研究者の方で妊娠中の妻を連れて来日される方がいらっしや、今回このコースだけは是非、受けておきたいという希望があったのも事実であった。

制度やシステム等、知っておいていただきたい内容ではあるが、日本語の習得としては想定される会話が限られるためカリキュラムも難しい。

「健康を保つ」

病院や医療制度の制度やシステム、また、場面で使われる語彙や会話も難しいものが多いが、身近であり必ず必要である内容であるため、受講者は常に熱心であった。ただ、受講者のほとんどが韓国人であったため、少数のタイ人受講生が意見や質問を出しにくい場面が見られた。受講生のレベルに少し差があったことも要因かもしれない。各クラスに補助者がいたのでフォローするように心がけたが、今後も同内容の授業を開講する際は配慮が必要である。

「子育てと教育」

「教育」とはいえ、幼児から高等教育まであるので受講者の子どもの年齢によって取り上げる「教育」の内容が違ってくる。例えば、未就園児を持つ受講生が多ければ保育所、幼稚園、小学校を取り上げるが、すでに小学生、中学生の子どもがいる受講生が大半の場合は中学校、高校を教材として取り上げなければならず、事前準備が難しい。今回は想定していた乳幼児、小学生までの子どもを持つ受講生が多かったので、想定していた内容と受講生が合致したが、今後、そのギャップがあった際、臨機応変にカリキュラムの変更が必要となる。

「地域社会に参加する」

2010年度のアンケートで「日本人のお母さんと話をする会話練習がしたかった」との意見があったため、近所づきあいやゴミ捨て町内会等のシステム等についても知ってもらい、地域住民と親しくなるきっかけを作ってもらおうと考えて、このテーマを盛り込んだ。ただ、テーマの名称が外国語を母語とする人には難しかったり、具体的に何を学ぶのか想像しがたかったかもしれない。こちらの想いと受講者の学びたいという気持ちがあつながつたかどうか。呼びかけの際、具体的な内容が想像できるコース名の設定を再考する必要がある。また、取り上げる内容と達成目標をどこに置くかということも今後検討が必要かもしれない。

「安全に暮らす」

事業計画前には東日本大震災のような大災害を想定していたわけではなかったが、結果的にはこの「安全に暮らす」を取り上げたことは、受講者側にとっても教授側、主催者側にとっても有益であったと思う。関西では1995年に阪神淡路大震災があり、それ以降、外国語を母語とする人にとっては日本人以上に災害時のニュースは非常に分かりにくいものであることを苦慮していた。今回、花岡運営委員長が活動している京都にほんご Rings(京都府下の日本語教室ネットワーク)のグループ「やさしい日本語の会」が2010年度に発行した「防災ハンドブック」も利用し、災害時に使われる語彙を易しくし、日本語の習得だけでなく、緊急時にどのように非難するかを講座で取り上げることができた。ただ、カリキュラム作成段階で「原子力発電所の事故」については今回の講座でどのように扱うか、悩んだ点である。「子育てをされている受講生」に対して講座を行うという観点からでは特に現在、ニュースで使われているマイクロシーベルト、放射能、放射線、放射性物質等の用語や食の安全について、どのように取り上げるか非常に悩んだ。日本語教室として取り上げるにしても正しい知識が必要であり、不安をあおることなく、しかしながら正しい情報を得て判断してもらうにはどのようにしたら良いか。結局、京都府が発行している冊子を取り上げるところで落ち着いたが、今後、日本語学習支援を続けるにあたって、この災害時の日本語の習得支援は欠かせないものであり、その為の支援側の知識を深める学びやそれをいかに分かりやすく伝える工夫と努力が不可欠と考えている。

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

5名より回答。事業の最終段階でアンケートを依頼したため、回答数は少なかった。無記名式。アンケート結果は以下の通り。()内は回答数。回答者が受講していたコースはそれぞれ違うため、回答合計数と回答数は一致しない。

京都YWCA 子育てのための日本語教室アンケート 丸を付けてください。				
コース名: 結婚と出産				
情報クラスはよくわかりましたか?				
ぜんぜんわからなかった(0)	あまりわからなかった(0)	ふつう(0)	わかった(1)	とてもよくわかった(1)
情報クラスでまなんだことは役に立ちますか?				
ぜんぜん役に立たない(0)	あまり役に立たない(0)	ふつう(0)	役に立つ(0)	とても役に立つ(2)
日本語クラスはよくわかりましたか?				
ぜんぜんわからなかった(0)	あまりわからなかった(0)	ふつう(0)	わかった(0)	とてもよくわかった(2)
日本語クラスでまなんだことは役に立ちますか?				
ぜんぜん役に立たない(0)	あまり役に立たない(0)	ふつう(0)	役に立つ(2)	とても役に立つ(0)
コース名: 健康を保つ				
情報クラスはよくわかりましたか?				
ぜんぜんわからなかった(0)	あまりわからなかった(0)	ふつう(1)	わかった(0)	とてもよくわかった(2)
情報クラスでまなんだことは役に立ちますか?				
ぜんぜん役に立たない(0)	あまり役に立たない(0)	ふつう(0)	役に立つ(1)	とても役に立つ(2)
日本語クラスはよくわかりましたか?				
ぜんぜんわからなかった(0)	あまりわからなかった(0)	ふつう(1)	わかった(0)	とてもよくわかった(2)
日本語クラスでまなんだことは役に立ちますか?				
ぜんぜん役に立たない(0)	あまり役に立たない(0)	ふつう(0)	役に立つ(1)	とても役に立つ(2)
コース名: 子育てと教育				
情報クラスはよくわかりましたか?				
ぜんぜんわからなかった(0)	あまりわからなかった(0)	ふつう(1)	わかった(0)	とてもよくわかった(3)
情報クラスでまなんだことは役に立ちますか?				
ぜんぜん役に立たない(0)	あまり役に立たない(0)	ふつう(0)	役に立つ(1)	とても役に立つ(3)
日本語クラスはよくわかりましたか?				
ぜんぜんわからなかった(0)	あまりわからなかった(0)	ふつう(1)	わかった(0)	とてもよくわかった(3)
日本語クラスでまなんだことは役に立ちますか?				
ぜんぜん役に立たない(0)	あまり役に立たない(0)	ふつう(0)	役に立つ(1)	とても役に立つ(3)
コース名: 地域社会で暮らす				
日本語クラスはよくわかりましたか?				
ぜんぜんわからなかった(0)	あまりわからなかった(0)	ふつう(1)	わかった(0)	とてもよくわかった(3)
日本語クラスでまなんだことは役に立ちますか?				

ぜんぜん役に立たない(0)	あまり役に立たない(0)	ふつう(0)	役に立つ(1)	とても役に立つ(3)
コース名:安全に暮らす				
日本語クラスはよくわかりましたか?				
ぜんぜんわからなかった(0)	あまりわからなかった(0)	ふつう(0)	わかった(1)	とてもよくわかった(2)
日本語クラスでまなんだことは役に立ちますか?				
ぜんぜん役に立たない(0)	あまり役に立たない(0)	ふつう(0)	役に立つ(1)	とても役に立つ(2)

② 実施主体からの研修内容結果評価

a. 日程・時間・回数など

今回のカリキュラムでは授業回数、時間は適当であっただろう。これ以上は開催が難しい。

受講生のアンケートでは時間帯、時間、回数等、適当であったとの回答であった。

b. 受講者のレベル

受講者の日本語レベルが一定でないことで、授業の進め方は難しくなる一面はあるが、中級、上級レベルの受講生がいると初級レベルの受講生をサポートしてくれるので、プラス面もある。次年度以降も委託事業を請けた場合、レベル設定を一定にしなくても良い。

c. 広報の期間・広報先・

京都 YWCA のホームページに掲載。京都市内の各保健所、保育所、幼稚園、区の児童福祉課、京都市内の大学留学生課、留学生寮、(財)京都市国際交流協会、(財)京都府国際センター、子育て支援をしている NPO、市民団体、多国籍料理店、など関係団体にチラシを配布。

2009 年度、2010 年度は教室の開催期間、内容、講師等が決定してから、日本語、各言語のチラシを一斉に配布していたが、本年度は先行して日本語のチラシを配布し始めた。今後も委託事業を請け負った際、事業の大枠が決まった段階でクラス内容の説明等の掲載が無くても広報をスタートするのが望ましい。

HP だけではなく、facebook やメーリングリストなども活用する。

京都市や京都市教委から後援をうけると、公的機関でのチラシの配布や市民しんぶん、区民しんぶんにも告知が載るので、より多くの人に知ってもらうことができるのではないかと考えている。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

京都YWCAでは外国籍住民支援として電話を通じての生活相談を「APT(Asian People Together)」が 20 年に渡り続けており、日本語学習支援としては「にほんご教室洛楽」が 15 年活動を続けている。また、子育ての側面では、こちらも 15 年ほど文庫活動や親と子のプログラムを提供してきている。また、日本に暮らす外国人が日本の文化に触れるイベントや、日本人向けの異文化理解プログラムなども開催している。それらの独自事業、活動が融合し、また、他団体とも協力を深め、地域で必要とされる外国人支援活動を展開していきたいと考えている。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

京都 YWCA 内の協力: APT、にほんご教室洛楽、子どもの教育を考える委員会親子ライブラリー、
同委員会リズム遊び参加者、子育て支援事業「ここから」参加者
(受講生との交流)

他団体協力: 京都にほんご Rings、「やさしい日本語」有志の会、(財)京都市国際交流協会、
大阪 YWCA 日本語教師会、上京消防署

同様のカリキュラムで事業を行う場合、妊娠・出産、健康クラスの情報提供には保健士の方に来てもらってもよいのではないか。

② 研修後の人材活用

- ・ これまでの受講生にクラスの通訳や補助として協力してもらったり、クラスで体験談を話してもらう。
- ・ 2年連続で子育てのための日本語教室を開催したのでカリキュラム、教材をパッケージにして他地域で研修等開催し、他団体にも子育てのための日本語教室を開催してもらう。

(12) 今後の課題

① 今後の課題、活動予定、展望

「結婚・出産」

参加者の層が限られているので、「結婚」についてはお葬式やお祝いごとなどと一緒に“冠婚葬祭のルール”として「地域社会に参加する」等のテーマに組み込み、「妊娠・出産」は「健康にくらす」に組み込むことを検討する。カリキュラムの順序と資料の見直し。結婚式の招待状や母子手帳など資料としてできるだけ実物を用意するとよい。

「子育てと教育」

お弁当の実習は好評であった。離乳食や日々の食に関して、調理の仕方等、分からなくて困っている、という意見が出た。生活と日本語学習を融合させた調理実習や実体験をクラスに組み込むことも今後、検討する。

「地域社会に参加する」

- ・ 「地域社会に参加する」ために必要な知識、抜けがちな知識は何なのかを今回の経験を踏まえてさらに検討する。
- ・ 「日本人と話すチャンスがない」「子どもの友だちのお母さんと何を話してよいかわからないのであまり話をしない」などという受講者が少なからずいた。日本人と一緒に何かを楽しめる場をクラスで提供するか、別の機会等紹介できるとよい。

「安全に暮らす」

「災害伝言ダイヤル」の体験利用では固定電話の番号しか利用できないのだが、多くの外国人が携帯電話しか持っていないので、インターネットの「災害伝言板」の方が利用する可能性が高い。今後はそちらを紹介する。

全体として

受講者の大部分が韓国の人たちであった。韓国の人たちが京都での外国籍住民のマジョリティーとはいえ、他の国からの出身者がもう少し参加できるように、開催曜日、時間等の再検討が必要。開催場所を他会場という方法もある。

日本人の母親との交流会はよい会話の実習となった。日本語学習支援として、机上の学習だけではなく、実体験を伴う学習を検討したい。